

新しい発想を
育む空間

mu-ku
問屋まちアートパーク完成!
愛称は「ムック」



KIMASSI

KANAZAWA

Vol.111
August

KANAZAWA TOIYA CENTER QUARTERLY NEWS
URL <http://www.kimassi.or.jp/>

2011年8月

金沢問屋センターニュース

第48回通常総会開催

理事長就任にあたって／退任にあたって
バトンエッセー

「金沢商人塾」第8期の開講が決定

うちのキラリンさん

問屋町の新しい個性と魅力を発信

事務局だより

組合事務局新職員紹介

事務局だより

INFORMATION

1月

- 4日 新年互礼会
- 27日 理事会
- 1. 総務委員会より
 - (1) 景況調査の集計結果について
 - (2) 新入社員歓迎式について
- 2. 厚生委員会より
 - (1) 経営者研修会について
 - (2) 労務管理講習会について
- 3. 組合運営委員会より
 - (1) 第9駐車場のフェンス修理について
 - (2) 防犯灯の修理について
- 4. 事業戦略委員会より
 - (1) 問屋町街角アートパークのモニュメント制作について
 - (2) 「問屋まちスタジオ」の無料貸出と運営についての報告
 - (3) 問屋まちスタジオ運営協議会の構成メンバーについて
 - (4) イベント開催について
- 5. 事務局より
 - (1) 総会の日程と開催場所について
 - (2) 「金沢商人塾」第5回例会の結果と第6回例会について
- 27日 経営者研修会
『最近の金融経済情勢』
日本銀行 金沢支店長 味岡 桂三氏
26社 34名参加

2月

- 8日 労務管理講習会
『社員のメンタルヘルスが会社を左右する』
NPO法人エッセンスクラブ 理事長 赤穂 依鈴子氏
14社 17名参加
- 10日 新入社員フォローアップ研修(第3回)
- 21日 生活習慣病予防健診
[一般健診]9社 32名
- 22日 生活習慣病予防健診
[簡易ドック]3社 6名 [付加健診]0名
[日帰り人間ドック]4社 6名

3月

- 3日 理事会
- 1. 総務委員会より
 - (1) 4～12月の収支実績について
 - (2) 定時総会について
 - (3) 運転資金特別融資について
 - (4) 出資金見合いの緊急融資について
 - (5) 問屋神社春季例祭について
 - (6) 建物リニュアル資金貸付について
- 2. 厚生委員会より
 - (1) 労務管理講習会の実施について
 - (2) 新入社員行事について
- 3. 組合運営委員会より
 - (1) 共同駐車場の除雪について
- 4. 事業戦略委員会より
 - (1) 旧交番跡地の公園の名称について
- 5. 問屋まちスタジオ運営協議会より
 - (1) 資材等の提供について
 - (2) 「問屋まちスタジオ」の開設イベントの実施について
- 6. 事務局より
 - (1) 予算案の提出について
 - (2) 「金沢商人塾」第6回例会の結果報告について

4月

- 4日 新入社員歓迎式
14社 39名(男性28名 女性11名)
- 6日 理事会
- 1. 総務委員会より
 - (1) 事業所従業員数調査について
 - (2) 新入社員歓迎式について
 - (3) 平成23年3月31日現在の組合員数について
- 2. 厚生委員会より
 - (1) 新入社員行事の開催について
- 3. 組合運営委員会より
 - (1) 会館の修繕について
 - (2) よろこび庵の家賃について
- 4. 問屋まちスタジオ運営協議会より
 - (1) 「問屋まちスタジオ」開設イベントの実施について
 - (2) A. I. T. K(アーティスト イニシアティブ トイヤ カナザワ)の設置について
- 5. 事務局より
 - (1) 東日本大震災の義援金について
 - (2) 商団連でまとめた東日本大震災の被害状況

- (3) 役員改選に伴う理事選考委員の任命について
- (4) 理事選考基準について
- (5) 正副理事長・正副委員長会の日程について
- 6日 新入社員電話教室
7社 20名(男性13名 女性7名)
- 7日 町内一斉清掃
- 7日、8日 新入社員研修会
8社 18名(男性13名 女性5名)

5月

- 9日 理事会
- 1. 総務委員会より
 - (1) 第48回通常総会について
 - (2) あおい商事(株)跡地の賃貸先について
 - (3) 出資金見合いの緊急融資について
- 2. 厚生委員会より
 - (1) 平成23年度福利厚生事業計画(案)について
 - (2) 新入社員フォローアップ研修の実施について
- 3. 組合運営委員会より
 - (1) 不燃物有料回収について
- 4. 事業戦略委員会より
 - (1) 「問屋まちアートパーク」の愛称募集について
- 5. 開発プロジェクトチームより
 - (1) しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2011」の参加補助について
- 18日 不燃物有料回収

6月

- 3日 理事会
- 1. 総務委員会より
 - (1) 集団健康診断の実施について
 - (2) 組合員の入退会について
- 2. 組合運営委員会より
 - (1) 会館の修繕について
- 3. 事業戦略委員会より
 - (1) 「問屋まちアートパーク」の愛称決定について
- 4. 開発プロジェクトチームより
 - (1) しんきんビジネスフェア「北陸ビジネス街道2011」について
- 5. 事務局より
 - (1) 第8期「金沢商人塾」について
 - (2) 商団連でまとめた東日本大震災の被害状況
 - (3) 「商団連グループ保険」への加入促進について

編集後記

青年部会では7月、永平寺へ修行体験に向かいました。

1泊2日の日程では、単に坐禅を行うだけでなく食事・入浴・手洗いの作法に至るまで「生活そのものが修行」であることを学びます。作法には、大自然の恵み(命)に感謝して美しい地球を永遠にと願いと資源を無駄にしないエコの精神が表されています。

夜明け前に起床して伺った講話で導師は、大震災のことにも触れられました。被災地の安寧へ向けた思いとともに、次の一言に感銘を受けました。「佛道に励むことで、この日本をかつての誇り高い姿に戻そうではありませんか」。不変の真理とはおよそ程遠いと思わざるを得ない世の中の混迷を何とかしたいという強い意志を感じた次第です。

(H・F)

第48回

通常総会開催

当組合の第48回通常総会は5月26日午後5時よりホテル日航金沢で開催され、全議案が原案通り承認された。



1. 総会の種類 通常総会
 2. 招集期日 平成23年5月10日
 3. 開催期日 平成23年5月26日
 4. 開催場所 ホテル日航金沢鶴の間
 5. 組合員数 1111人
 6. 出席総数 本人出席50人
委任状出席37人
 7. 議長 富木 昭光
- 司会者より、出席定数が過半数を超えているので本通常総会は成立する旨報告後、議案の審議に入る。

総会後、会場を移して行った懇親会は、伊藤新理事長の挨拶、小西北國銀行 問屋町支店長の乾杯のご発声で始まった。会の途中、金沢美術工芸大学との提携で進めている事業をスライド上映し、「問屋まちアートパーク」の愛称発表を行った。最後に坂本北陸銀行金沢問屋町支店長より中締めがあり懇親会はお開きとなった。

富木理事長挨拶

文化の街づくりをさらに推進
初めに、3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災地域の皆様に心からお見舞い申し上げます。この

来賓出席者

橋本 政人	石川県商工労働部次長
西川 哲	金沢市産業局商業振興課長
越島 正喜	金沢商工会議所専務理事
五嶋耕太郎	石川県中小企業団体中央会会長
大飼 勇	商工組合中央金庫 金沢支店長
小西 利之	北國銀行問屋町支店長
坂本 嘉和	北陸銀行金沢問屋町支店長
浦 宏一	金沢信用金庫問屋町支店長

未曾有の大災害から、一日も早く復興されることを心より念願致します。
昨年は、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還や二人の日本人のノーベル化学賞受賞といったうれしい話題がありました。一方経済は緩やかな持ち直し傾向にあったものの、円高・株安、雇用情勢は厳しい状況が続いていました。そして更に、今年3月の東日本大震災の発生で経済は急速に落ち込み、景気回復が本格化するのは、電力不足の問題が一段落し復興機運の高まりが顕在化してからとの予想です。

このような環境下にあつて、組合員各社には技術力と特性を活かし自助努力によって元気な企業を目指していただくことを念じて「組合員各社の繁栄と社会のために貢献できる組合を目指す」という長期ビジョンを掲げ、組合は組合員の皆様の仕事にどのようなお役に立てるかを基本において事業を推進してまいりました。
まず「きれいな街づくり」として、いろいろな企業が入りたくなる街、従業員に親しまれる魅力ある街を目指してきました。これは全国中央会の補助事業でもあり、空き店舗の解消にも繋がることから積極的に取り組みました。更に、環境整備に併せて「文化が息づく街づくり」をイ



退任にあたって

恩返し8年間、ありがとうございました



協同組合 金沢問屋センター 相談役理事 富木 昭光

この度理事長を退任するにあたり、お礼のご挨拶を申し上げます。まずこの8年間、ご理解とご支援を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。平成15年5月に理事長に推薦され就任してから、3期8年間務めさせて頂きました。終わってみれば、長いようであつと言つ間の8年でした。

顧りみまずこの間、いろいろな出来事がありました。パブルがはじけて経済成長がマイナスになり、土地神話が崩れて価格も下がり、倒産・廃業が続出してシャッターが下りたままの店舗や空き地が目立つようになりましたが、組合員の皆様のご努力の結果、横ばい位にまで回復しつつあると思われました。しかしその後、米国発のリーマンショックに見舞われ再び厳しい経済環境に置かれました。そして、それもようやく一段落したとの思いでいたところ、今回の東日本大震災の影響で政治も経済も一時停滞といった状況になっております。

このような環境のもとで、当センターの運営自体は割合順調に歩み続けることができましたことを幸運に思っております。まずは、組合員の活性化が何よりの課題ですが、個々の企業の問題にまで立ち入ることにはできません。それは各社の自助努力によるしかないので、ただ組合として企業の活性化のために何か少しでもお役に

メッセージながら進めた結果、芸術を取り入れて潤いとゆとりある文化の街づくりをと、昨年5月に金沢美術工芸大学との間で「金沢市問屋町の街づくりに関する協定書」を結びました。空き店舗を「問屋まちスタジオ」として作品制作や公開展示場に活用してもらうことで、環境の整備と地域活性化に繋げました。このように商業団地と芸術系大学がアートを軸に産学連携して街づくりを行う企画は、全国でも初めてです。
青年部会では、組合並びに組合員の活性化に繋がる将来ビジョンを調査研究し発表してもらいました。また、人づくりでは第7期目の「金沢商人塾」や各種研修事業などを実施いたしました。
今年度の組合運営については、特に「アートをキーワードとする文化の街づくり」を念頭に取り組みたいと思います。昨年実施した「町並み景観の整備調査研究」の結果を踏まえ、金沢美術工芸大学のご協力をいただきながら「問屋まちスタジオ」を活用し街全体に作品展示をするなど積極的に推進していきたいと思っております。そのほか、第8期目を迎える「金沢商人塾」及び各種研修会の開催、ビジネスマッチング事業の推進など積極的に実施していきたいと考えております。

東日本大震災の義援金報告

東日本大震災により犠牲となられた多くの皆様に謹んで哀悼の意をささげますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。
組合では石川県を通して100万円を、全国卸商業団地協同組合連合会と石川県中小企業団体中央会を通してそれぞれ10万円を義援金として寄付いたしました。

いずれの事業も組合員各位のご理解と協力が大切です。皆様からのご意見をお聞きしながら進んでいきたいと考えておりますので、よろしくご願ひ申し上げます。

立ち、お手伝いできないものかと試行錯誤してまいりました。
その一つに「金沢商人塾」を開講し、若手経営者に経営力と人間力を磨いていただく事業に取り組んできました。また昨年来、金沢美術工芸大学と提携ができ、「きれいな街づくり」から「アートの街」を目指して環境の整備とともに「うるおいのある街」、「心のゆとりを感じる街」、「文化の街」にしようと思いを变えてみることもしました。これは全国の卸団地の中で初めての試みであり、金沢の地だからこそできるものと確信しています。商売とは結果として儲けることですが、心のゆとりがあれば立ち止まって考えることもできると思っております。

私の会社は昭和41年11月に当団地へ引越してきたのですが、団地内をはじめ多くの方々と接し、私自身も会社も問屋センターに来たことよって育てていただいたと思っております。その恩返しのつもりで理事長を引き受けさせていただいた次第です。組合事務局の協力のもと、少しはお役に立ち、お返しすることができたのではないかと自負しております。
人生、引き際が大事だと自分に云い聞かせ、この辺りで後進に道をゆずるべきだと決意いたしました。幸い、伊藤理事長とは長い友人です。ずっと副理事長を務めてこられた方であり、問屋センターについては熟知されていますので、安心してお任せできます。私は、暫く理事に残ってくれということですので、何かアドバイスできることがあれば「相談にのりたい」と思っております。

終りに今後とも問屋センターの益々の発展と組合員の皆様のご繁栄とご健康をお祈り申し上げてお礼のご挨拶とさせていただきます。
どうもありがとうございました。

理事長就任にあたって

「きれいな街を創る」を継承し推進します



協同組合 金沢問屋センター 理事長 伊藤 淳藏

この度の東日本大震災で被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。さて世の中がめまぐるしく変化し経済状況が思わしくないなか、第48回定時総会において第7代理事長を拜命し重責を感じている次第です。しかし、選ばれたことは光栄なこと肝に銘じ、力の限り努力することを誓い申し上げます。

私自身、富木前理事長とともに「きれいな街を創る」を合言葉に歩んでまいりました。この指針を継承し推進していくことが最重点課題だと捉えておりますが、私としてどのような指針を出せば良いかを改めて考えました。やはり基本的なことですが、従業員の人が金沢問屋センターの会社に勤めることができたら良かったと実感していただけることが大切だと思います。そのためには如何にすれば良いか？大雑把な言い方ですが、勤めている環境が「他人に自慢できる」ことではないかと考えます。その一例が「問屋まちスタジオ」であることは、直接関係している人達でも十分に理解されていないのではないのでしょうか。

空き店舗を利用したスタジオは、作品の制作スペースに困っていた美大生に喜ばれているばかりでなく、問屋センター組合員の要望を取り入れたオリジナル作品の制作が可能になるといふメリットもあります。

このような試みは全国でも希で、金沢21世紀美術館のスタッフの方々にも関心を示していただき、数々の提言を頂戴しているところです。組合員の皆様、ぜひ「問屋まちスタジオ」に興味を持ってください。気軽に訪問し、美大の先生や学生との交流を通して非日常の空気を感じ、発想を転換する機会になると思います。そのことがビジネスにおいてプラスとなり、新しいアイデアが生まれ、きつとお役に立てるのではと期待しています。ビジネスと関係のない人達が集うことを嫌う方もおられるかもしれませんが、新しい空気はきつとグッドな結果を生むと信じております。何とぞ温かい目で見てください。

次に組合運営について、私の基本的な考え方を少し述べさせていただきます。金沢問屋センター運営の最高決定権は理事会にあります。その下に組織されている4つの委員会と開発プロジェクトチームでは、問屋センターの現状、将来について熱心に審議していただいておりますが、貴重な時間を割いてご出席いただいた委員の皆さんの意見を尊重し、委員会でご決定された案件はできる限り承認したいと考えております。そして青年部会の皆様には、夢のある楽しいビジョン、改革案、建設的な提案を期待しております。さらにそれらをサポートする事務局に対しては柳瀬常務理事を中心にスタッフ全員が力を合わせて明るく楽しい雰囲気を作り、組合員に愛されることを願っております。

今日日本はいろいろな意味で試されています。政治的にも経済的にも厳しい状況が続きます。金沢問屋センターもさまざまな影響を受けているのが現状です。だからこそ環境を整え、互いに手を携えて前進していきましょう。

微力ではございますが、最善を尽くし努力いたしますので、皆様の「指導」「鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

「金沢商人塾」第7期を終了



『このちのバトンタッチ』青木新門氏

第7期最終回例会報告

第6回 ● 2月26日(土)

ある青木新門氏を迎えた。氏は5歳のときに満州に渡り8歳で終戦を迎えた。弟を亡くし母がチフスで隔離されるなか、ある日、妹が横で冷たくなっていくの気づき、自分で妹を埋葬したという。そして後に、長崎の原爆の写真展で男の子が弟の死体を背中に背負った写真を見たときに、その経験が一気に蘇ったところである。それは五感で認識する死であり、A少年の起った死の頭で考える死とは全く別物であると説明した。

氏は詩や小説を書いて暮らしていたが、困窮し仕事を探していたところ、偶然、納棺夫の仕事に就いた(現オークス(株)現在是非常勤監査役)。納棺夫という死に携わる仕事をしていることで叔父から「恥」と罵られることなどもあったが、その叔父が末期がんで入院し、いよいよ最期という時に見舞いに行つたところ、「ありがと」という言葉を言い残して亡くなったところである。そのとき叔父に対する憎しみはなく、己に対する恥ずかしさを感じたという。

モノや金に目を奪われがちな現在、物事

多彩な講師陣で第8期の開講が決定

第7期「金沢商人塾」は2月26日、青木新門氏を講師に第6回目の例会で最終回を迎えました。引き続き8期目の開講が決定し、経営力を高めるため6回の例会が予定されています。

7/23 第8期開講式と第1回例会を実施

第8期は37名の塾生が集まった。今期はシブサワ・アンド・カンパニー(株)代表取締役で洪澤栄一の5代目子孫に当たる洪澤健氏のほか、タビオ(株)会長の越智直正氏、毎年宿泊を含む2日間の講義をお願いしている大塚徹氏など多彩な講師陣を進めていく。

を五感で認識すること、(人として)大地とくっついていることが大事だという話をし、講義を締めくくった。

- ### 第8期スケジュール
- 第1回 7月23日(土) 講師/名古屋大原学園学園長 杉山孝男氏
 - 第2回 9月17日(土) 講師/社会教育研究所 所長 張琴氏
 - 第3回 10月15日(土)、16日(日) 講師/株式会社ヒューン経営研究社 社長 大塚徹氏
 - 第4回 11月26日(土) 講師/タビオ(株)代表取締役会長 越智直正氏
 - 第5回 12月17日(土) 講師/洪澤栄一五代目子孫 洪澤健氏
 - 第6回 平成24年9月25日(土) 講師/株式会社武蔵野代表取締役社長 小山昇氏
- 「強い会社にするための儲かる仕組み作り」

役員・委員会名簿

理事長	(株)アイネックス	会長	伊藤 淳藏	理事	(株)つくーる	社長	橋 俊一	理事	(株)たなかや	専務	田中 清一
副理事長	小川商事(株)	社長	小川 榮一	〃	(株)トミキライフケア	社長	富木 誠一	〃	(株)ヤギコーポレーション	社長	八木圭一郎
〃	北陸通信工業(株)	社長	辰川 伸一	〃	丸与商事(株)	社長	小西 敏夫	〃	成瀬電気工事(株)	社長	成瀬亮太郎
〃	(株)マルシン	社長	丸岡 信一	〃	川上産業(株)	社長	茨木 喜幸	〃	小川(株)	社長	小川基次郎
〃	(株)寿商会	社長	若林 智雄	〃	大宗(株)	社長	大西 憲治	〃	(株)マツモト	社長	和泉 健治
〃	(株)キヨー・エイ	社長	高桑 幸一	〃	(株)土谷九兵衛商店	社長	土谷 守	〃	泰和ゴム興業(株)	取締役	藤本 博司
相談役理事	富木医療器(株)	社長	富木 昭光	〃	(株)五井建築設計研究所	社長	西川 英治	常務理事	(協)金沢問屋センター	事務局長	柳瀬 彰一
理事	(株)コシハラ	社長	越原 悠三	〃	森佐(株)	社長	森 昭夫	監事	北陸ペイント(株)	社長	山田 修三
〃	(株)中嶋帽子	社長	中嶋 正治	〃	アサヒ冷機	専務	東藤 幸介	〃	糸生(株)	社長	小阪 邦弘
〃	(株)丸一商店	社長	黒梅 吉英	〃	中西(株)	社長	中西 一彰	〃	斉田ベビー(株)	社長	斉田 泰吉
〃	岡本(株)	社長	岡本 進	〃	㈹ネーミングこしの	社長	越野 勉				

総務委員会

担当副理事長 辰川 伸一

委員長	丸与商事(株)	社長	小西 敏夫	委員	金沢機工(株)	会長	井上 三郎	委員	小川商事(株)	取締役	五寶 一雄
副委員長	川上産業(株)	社長	茨木 喜幸	〃	小倉(株)	会長	小倉外志朗	〃	(株)キヨー・エイ	取締役	太田 善久
〃	(株)土谷九兵衛商店	社長	土谷 守	〃	(株)中嶋帽子	社長	中嶋 正治	〃	富木医療器(株)	社長	富木 隆夫
				〃	(株)丸一商店	社長	黒梅 吉英	〃	(株)マルシン	専務	丸岡 信之

組合運営委員会

担当副理事長 若林 智雄

委員長	大宗(株)	社長	大西 憲治	委員	(株)つくーる	社長	橋 俊一	委員	(株)マツモト	社長	和泉 健治
副委員長	岡本(株)	社長	岡本 進	〃	(株)太陽テント北陸	社長	石崎 貞治	〃	アサヒ冷機	専務	東藤 幸介
〃	森佐(株)	社長	森 昭夫	〃	(株)トルハート	常務	高崎 幹雄	〃	(株)シキケミカル	社長	普和 克守
				〃	ウィルビー(株)	常務	村上 武一	〃	(株)コシハラ	常務	越原 寿朗

厚生委員会

担当副理事長 丸岡 信一

委員長	(株)コシハラ	社長	越原 悠三	委員	川崎(株)	会長	川崎 晃	委員	北村電機産業(株)	社長	稲田 慎二
副委員長	(株)トミキライフケア	社長	富木 誠一	〃	あい警備(株)	取締役	森山 守	〃	(株)賛協	社長	多田 泰雄
〃	中西(株)	社長	中西 一彰	〃	小川(株)	社長	小川基次郎	〃	(株)たなかや	専務	田中 清一
				〃	ナカダ(株)	専務	中田 文夫	〃	成瀬電気工事(株)	社長	成瀬亮太郎

事業戦略委員会

担当副理事長 高桑 幸一

委員長	(株)五井建築設計研究所	社長	西川 英治	委員	弘進ゴム(株)	社長	今井 仁	委員	(株)オータニ	取締役	大谷 方人
副委員長	ジャパンプレミアム(株)	社長	三谷 浩二	〃	同信産業(株)	所長	東 政宏	〃	泰和ゴム興業(株)	取締役	藤本 博司
〃	(株)ネーミングこしの	社長	越野 勉	〃	(株)アルプ企画	常務	高間 俊成	〃	丸六(株)	社長	篠原 淳
				〃	(株)ヤギコーポレーション	社長	八木圭一郎	〃	(株)東山商会	取締役	道上 聖

バトンエッセー Vol.12

震災と吉里吉里国



ジャパンプレミアム(株) 代表取締役社長 三谷 浩二

かつて幾度か訪ねた岩手県三陸地方を震災後初めて訪れ、被害の状況を見てきました。報道で何度も伝えられた大槌町は太平洋に突き出した岬と二つの湾でできている静かな町で、井上ひさしの小説『吉里吉里』の舞台としても知られています。3月11日の地震による大津波と直後に発生した大規模な火災により町の大部分が大きな被害を受けました。世帯数5600の町で全半壊建物3677戸と壊滅的とも云うべき状況です。今ようやく市街地の瓦礫は撤去されつつあり、地元の方の話では、震災直後のような目を覆うばかりの生々しい惨状とは大きく変わったとのことでしたが、初めて目にするその光景はどこか現実感を欠くものでした。眼前にありながら現実感を欠くというのも奇妙ですが、木造の建物がすべて燃え尽き、津波に流れられ、残った瓦礫も大半撤去され、ところどころに骨組みだけが焼け残っているコンクリートビル、山の斜面に突き刺さるように残された自動車の残骸、焼け野原に人影はなく動いているものは瓦礫を片付けるショベルカーと時折その上を舞うカラス、あたりに漂う異臭がなければまるでSF映画のセットのような、非現実的ともいえる異様な光景です。これほど大きな自然の力の

前に人はただ立ち尽くすしかありません。町を回った後、同行の皆が思い巡らしたのこの町はこの先どうなるのかという事です。すでに4ヶ月経つというのに復興どころか瓦礫の山がうず高く積みあがっていただけで復旧さえも覚束ない状況です。かつて確かにあった街並みや港や田畑がこれかたりともありません。前途に希望を持ってない動き盛りの人たちが職を求めて次々と街を離れているとも聞きます。数十年にわたり国の農水産業政策に翻弄され続け、たくさん若者を都会に送り出し徐々に活力を失ってきた地域に、この震災が最後のダメ押しをするのでしょつか世間(東北地方以外)の関心も原発事故を除いて徐々に薄れてきているように見えます。65歳以上の人口がすでに35%を超えているこの町の住民に、今以上の自助努力が可能なとは思えません。三陸の人たちは皆、全国からの支援に対する感謝を口にするだけで、政府や自治体に怒りを表す人にはとりもかえりませんでした。怒りの表現の仕方を忘れてしまったかのようです。

そんな穏やかな東北人に代わって小説家は30年前に『吉里吉里』の中で「吉里吉里国」の住民に「日本国」からの独立を決定させ、次のような独立宣言を「吉里吉里語」(岩手南部方言)で発します。まるで今我々に向かって宣せられたかのよう

「日本の国には愛想もこそも尽き果てだちうつこつだ。…国益つものさは勘定はあつても感情はねえわけだべな。だども俺達(オラタツ)は人間、感情がある。人間らしい感情さしたがってこれから俺達は米ばつくる。自分で必要だと思つて自分を自分でするこじした…」



時代の進化のスピードに負けれない

成瀬電気工業株式会社 矢田 俊介さん

お客様や現場の人たちと深い関わりを持てる営業という仕事にやりがいを感じながら働いていたのですが、前の会社では異動があって別の部署へ。どうしても営業がしたくて3年前に入社しました。電気設備工事の専門的な知識については、まだまだ勉強中の身です。

最近箱物工事が減少し受注価格がどんどん下がっています。当社でも新規の物件を追いかけるだけでなく、既存のお客様に省エネ改修や環境衛生に配慮した設備を提案するなど、視点を変えた営業活動が本格化しています。LEDや太陽光発電への関心も高まり、僕が詰め込んだ知識以上に情報をお持ちの方もたくさんいらっしゃいます!時代の進化が早く、覚えていかなければならないことが山積みです。

うちのキラリンさん

問屋町にお勤めの元氣な社員の方をご紹介します

自分ならではの営業スタイルを模索中

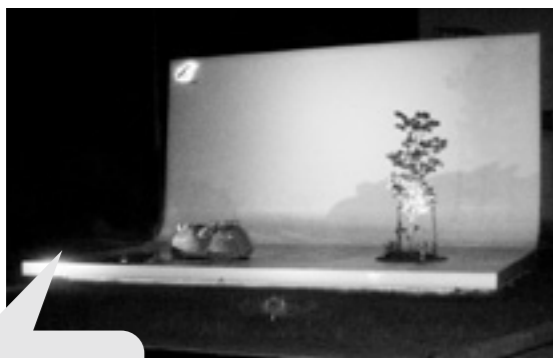
株式会社ヤギコーポレーション 坂下 哲哉さん

昨年の11月に直販部隊から異動になり、エンドユーザーである企業さんから代理店さんへと営業の相手が変わりました。客先の要望に合わせて当社では手がけていない作業服や安全靴まで提供するなど幅広い知識が必要だった直販部隊に対して、代理店への営業はユニフォームメーカーとしての専門的な知識が求められます。

知識も経験値も上の方々を相手に緊張しますが、ここが成長のチャンス。上司や先輩から学びつつ、エンドユーザーと直接向き合ってきた直販部隊での5年間の経験を生かして自分の営業スタイルを確立していきたい。代理店のその先にいるユーザーを想像しながら販売に必要なモノ・情報を提供し、販売のお役に立てたいと思っています。



夜になるとライトアップされ、照明の中に作品が浮かび上がる。



**問屋まち
アートパーク**

●竣工式
4/22(金) 13時~

アートの町のシンボルが完成し、竣工式が行われた。



米川久美子さんの作品「Sea Slug」。



第1号の展示作品を設置。



2月から旧交番跡地に工事を進めてきた公園が完成し、竣工式を行いました。当日は、冨木理事長、金沢美大理事長として坂本英之教授、金沢市長代理として坂本英之教授、山田克俊氏、アートパークのモニユメントのアイデアを提案した美大生の高木吉子さんから挨拶をいただいたのち、西川事業戦略委員長から公園の愛称の募集要項が発表されました。また、モニユメントに展示された「Sea Slug」(海牛)の作者である米川久美子さんからの言葉が代読され、最後にテープカットが行って竣工式は終了しました。

公園愛称が
mu-kuに
ムック 決定!

公園の愛称募集には組合員、従業員、学生から合計44件の応募がありました。

問屋まちスタジオ運営協議会で公正なる審査をした結果、「mu-ku」に決定。

この名称は(株)たなかやの専務取締役 田中清一氏より応募いただいたもので、何にも描かれていない純粋無垢なキャンパスや、今後どのようにもデザインされていく無垢な板という意味が込められています。

6/28



6月28日には、青年部会と金沢美術工芸大学教授、学生との交流会を実施しました。

**映像作品
投映**

●夜の問屋まちで映写会
7/4(月)・8(金)
20時~

金沢美大視覚デザイン学科3年の学生が町内の建物壁面に映像作品を映写するという試みを行いました。「ナイト・ストリート・ストリート」という題名の映像作品で、ウサギが月から降りてきて、飛行機に乗ったり、浮き輪を付けて泳いだりしながら、街中を駆け回り、最後にはまた月に戻っていくという内容のアニメーションです。プロジェクトを中型バスの車内に固定し、そこから建物に映像を写



営業を終えて閉じられたシャッターをスクリーンに、アニメーションが展開された。

しながら、町内約1・3キロにわたってバスを走行させ、町内の建物をスクリーンにして映像作品を映し出しました。1回約3分の作品を参加者はバスに乗って鑑賞しました。参加された方から、「蒸し暑い夜だったが、暑さを忘れるほど良かった」という声などをいただきました。

**問屋まち
スタジオ**

●オープニングセレモニー
3/15(火) 12時~

公開制作



作品展示

金沢美術工芸大学に無償貸与することになった「問屋まちスタジオ」で行っていた設備等の整備が終わり、3月15日(火) スタジオのオープニングセレモニーを行いました。セレモニーでは、金沢美大の坂本英之教授と伊藤副理事長の挨拶に続いてスタジオに滞在して制作を行う教授1名、学生・OBOG名が自己紹介を行い抱負などを述べました。その後参加者は、普段ほとんど見ることができない彫刻や絵画などの生の制作現場を見学、学生がチェンソーで木材の加工をする様子などを興味深く観賞していました。今後このスタジオは、金沢美大生などによりギャラリー、アトリエとして活用されます。

トレーラーキャンパ
第1部 公開制作
3/15(火) 12時~19時
スタジオ開設を記念して3月15日(火) から1週間、*トレーラーキャンパを企画し、教授、学生、OBOG名による公開制作制作を行いました。なかにはスタジオに住み込んで制作をする熱の入った学生もあり、今後、問屋まちスタジオから新しい問屋まち発信されていくことを予感させました。

オープニングパーティー
4/22(金) 14時~
公開制作を経て上がった作品の展覧会のオープニングパーティーが行われました。3月の時点ではどのような作品になるのか想像できなかったものが実際に完成して展示されると、公開制作時とは全く違った雰囲気のあるスタジオとなりました。



トレーラーキャンパ
第2部 作品展示
4/22(金) 14時~24時
4/29(祝) 10時~18時
5/6(金) 10時~18時
スタジオを開放し完成した作品を公開展示。また4月23日と5月7日は、美大教授と学生が一般市民を巻き込んだスタジオ見学のバスツアーを企画・実施し、ツアーに参加していた金沢21世紀美術館の学芸員から今後のスタジオの展開についてアドバイスなどもいただきました。
*TRAILER CAMP
TRAILERは、映画などの予告編のことです。これから始まる活動の「前編」という意味が込められています。

街なかTOPICS

ドコモショップ



ある同店舗が問屋まちに移ってくるようになります。11月の完成、営業開始を予定しております。

組合が土地所有する旧アウディ跡に、このたびドコモショップが入ることになりました。現在、近岡に

問屋町の新しい個性と魅力を発信
〜金沢美術工芸大学との連携で街づくりを〜

金沢問屋センターでは昨年5月、金沢美術工芸大学との間で「金沢市問屋町の街づくりに関する協定書」を締結し、若い感性を取り入れた文化の街づくりに取り組んできました。その一環として整備を進めてきた「問屋まちスタジオ」と「問屋まちアートパーク」が完成し、新しい問屋町の発信が始まっています。

